

平成30年度使用小学校用教科用図書を選定理由書

1 種目 特別の教科 道徳

2 発行者名 116日本文教出版

3 選定理由

本地区の児童は、明るく素直で異年齢の友だちとも仲良く関わり合うことができる。一方で、固定化した人間関係になりやすい環境もあり、軽はずみな言動による人間関係のトラブルや「いじめ」の誘発・助長といった問題も見られる。また、児童にとってインターネットが身近な存在となっており、深刻化するインターネット上でのトラブルを未然に防ぐ上でも家庭や地域と連携した取組がより一層求められている。

道徳の授業については、各学校において、児童の発達の段階や特性等を踏まえ、計画的に行われているが、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、道徳的価値について深く考える指導が十分でないといった課題が挙げられる。

このような実態や課題を踏まえ、次の視点について考慮されている。

○ 問題解決的な学習及び体験的な学習を行うための工夫

児童が問題意識をもつことができるように、児童の思考の流れに沿った段階ごとの発問を設定したり、「学習の手引き」で学び方の基本を理解させたりするなど、議論を活発にする工夫が見られる。また、体験的な学習に適した教材の後に「学習の手引き」を意図的に挿入し、役割演技や動作化等を通して道徳的価値を深く考えられるような工夫が見られる。

○ 児童にとって読みやすく、主体的に学習に取り組むための工夫

児童が取り組みやすいように、各教材の始めにあらすじや登場人物の紹介をしたり、「心のベンチ」や「学習の手引き」で考えを広げたり深めたりできるような工夫が見られる。また、巻頭の「道徳のとびら」や「学び方」で主体的な学びをサポートしたり、別冊「道徳ノート」に自らの心の成長や友だちの考えを書き込めるようにしたりする工夫が見られる。

○ いじめ問題、情報モラル教育等への対応及び家庭との連携を進めるための工夫

社会的課題である「いじめの防止」「安全の確保」「情報モラル」「社会の持続可能な発展」に関しては、重要なテーマとして複数の教材を配置し、重点化する構成の工夫をしている。また、別冊「道徳ノート」では、学習状況を継続的に記録することにより、児童が振り返り、自己の成長を実感できるとともに、家庭との連携を図ることができるように工夫している。

このような工夫により、教師にとっても使いやすく、教えやすいものとなっている。

更に、本地域に関わりの深い内容（第6学年で「口蹄疫」に関する教材文）が取り上げられている。

これらのことから本採択地区に適している。